

問題

次の文章を読んで、災害時における行政の SNS 利用についてあなたが考えたことを、句読点を含めて 1000 字以内で述べなさい。

■ SNS 活用 行政に市民目線

「市民目線で行政をやらなあかんという中で、ツイッターで市民目線で発信したことはベリーグッド。市民にフランクに話しかけるのは大変ええこと」

あまり部下をほめるところを見たことがない名古屋市の市長が 6 日の定例記者会見でそう持ち上げた。消防局の公式アカウントのツイッターに反響が相次いだ件のことだ。

西日本豪雨の被災地・岡山県倉敷市真備町での救助活動にあたり、「救助はすぐ側（そば）まで来ています。必ずあなたを助けます」（7 月 7 日）と力強いメッセージを発信し、被災者を勇気づけた。猛暑日が続く中、「出動が連続し消防署に戻れない時は、救急車でコンビニ等に立ち寄り飲料水等を購入する場合があります」（同 26 日）と市民の理解を求めた投稿には「いいね」が 8 万件近く寄せられた。

朝から 5 回連続で出動が続く隊がいたことなどから事前周知の必要があると判断したのだという。ネット上などではこの投稿をきっかけに、救急車が飲食のため店に立ち寄ることについて賛否両論の議論が巻き起こるおまけまでついた。

秘訣^{ひけつ}を消防局の担当者に聞くと、「ただ発信するのではなく、その時点で誰に何を伝えるべきかを考えた結果」。簡易に発信が可能だけに、炎上することも少なくない SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）だが、必要な情報を対象者に、直接届ける特徴を生かした好例だったのは間違いない。役所らしからぬツイートに今後も注目したい。

（読売新聞 2018 年 8 月 12 日朝刊 掲載）